

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 中部山岳国立公園魅力増進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境生活政策課 中部山岳国立公園活性化 電話番号：058-272-1111(内2926)
 推進係

E-mail：c11260@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 21,237 千円 (前年度予算額： 20,789 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	20,789	5,750	0	0	0	0	8,317	0	6,722
要求額	21,237	5,750	0	0	0	0	8,892	0	6,595
決定額	21,237	5,750	0	0	0	0	8,892	0	6,595

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

中部山岳国立公園南部地域が国立公園満喫プロジェクトに準じる公園となり、環境省を中心に「中部山岳国立公園南部地域利用推進プログラム2020」(H30-R2)を策定。県では「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画」(H30-R4)を策定し、協議会を設置して取組を開始したが、令和2年度以降、新型コロナによる行動制限やインバウンド消滅等の影響を受け、取組の多くに中断や遅延等が生じるとともに、当地域への入込客数も激減した。

こうした中、アフターコロナを見据えて「南部地域利用推進プログラム2025」(R3-R7)を策定し、新たに“松本高山ビッグブリッジ構想”を掲げ、世界水準のディスティネーションを目指す両地域・官民一体の取組を開始した。

県においても、ビッグブリッジ構想やコロナからの早期回復、令和6年夏のビジターセンターオープン等を踏まえ、現計画に基づく取組を継続しつつ、令和6年度を始期とする次期計画を策定し、引き続き、関係機関と連携して当地域の活性化に向けた取組を推進する。

また、五色ヶ原の森を会場とした県内小学校向けの環境学習を推進する。

(2) 事業内容

① 岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会負担金 11,500千円

コロナにより中断、遅延した取組みの継続のほか、中部山岳国立公園奥飛騨ビジターセンターのオープン後、利用を促進するための取組を行うことにより、ビッグブリッジ構想の実現及び次期岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画に基づく取組みを推進する。

ア 協議会開催費 264千円

イ 協議会活動費 8,886千円

ウ 協議会運営費 2,350千円

② 乗鞍岳自然環境学習の推進 8,892千円

五色ヶ原の森を会場とした五色ヶ原の森をフィールドとした県内小学生向けの自然環境学習を推進。

③ 車致費 605千円

⑨ 事務費 090111
事業実施に必要な事務費

(3) 県負担・補助率の考え方

①の事業については、同公園の魅力増進を図るため、県及び高山市が主体的に取り組む必要がある事業であり、両者の負担により事業を実施。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	512	業務旅費、費用弁償
需用費	50	公用車燃料費
使用料	133	公用車ETC
委託料	8,892	環境学習の実施
負担金	11,650	岐阜県中部山岳国立公園活性化協議会負担金(11,500千円) 中部山岳国立公園指定90周年記念事業にかかる負担金(150千円)
合計	21,237	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略[3-(1)地域の魅力の創造・伝承・発信]
[3-(2)次世代を見据えた産業の振興]

岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想(平成29年7月策定)

岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画(平成30年1月策定)

次期岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画(仮)(令和6年3月策定)

中部山岳国立公園南部地域利用推進プログラム2025(令和3年3月策定)

(2) 国・他県の状況

国(環境省):国立公園満喫プロジェクト(平成28年度~)

平成28年、国立公園満喫プロジェクトの対象8公園に準じる公園として当公園南部地域が指定。

国(環境省):宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針に基づき、国立公園における滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業に中部山岳国立公園(南部地域)が選定。

国(観光庁):地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル観光地に松本高山が選定され、官民一体となった高付加価値化の取組みを行っている。

(3) 後年度の財政負担

県、高山市、地元関係団体間で役割分担しながら実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体:県、高山市

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和6年度に策定した次期岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画に基づき、活性化の取組を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

天候や社会情勢など様々な要因により入込数変動するため、指標は設定しない。

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジターセンター検討部会を設置、開催（計7回） ・乗鞍岳エコツアーリズム検討部会を設置、開催（計1回） ・若者向けPR素材の作成（岐阜美少女図鑑連携） ・奥飛騨温泉郷施設に多言語案内QRコードを設置（8施設） ・五色ヶ原の森で県内小学生に自然環境学習を実施（計317名参加） ・若年層向けにYouTubeインストリーム広告の配信 ・飛騨高山学会自然環境分科会の開催（8団体発表）
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・乗鞍岳エコツアーリズム検討部会を設置、開催（計1回） ・ビジターセンターリニューアルオープンを見据えたプログラムの試行（計2回） ・中部山岳国立公園PR映像、e-bikeを活用したPR映像の制作 ・五色ヶ原の森で県内小学生に自然環境学習を実施（計639人参加） ・飛騨高山学会自然環境分科会の開催（11団体発表）
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和5年度	令和7年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 2	令和5年度に令和6年度から取組む次期計画を策定し、令和10年度まで取組みを継続する。環境省においても国立公園満喫プロジェクトとして同地域の活性化を推し進めており、必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 1	中部山岳国立公園及び乗鞍岳の入込数は、新型コロナウイルス感染症及び令和2年7月豪雨災害により大きく減少。さらに令和4年9月に乗鞍スカイラインが再崩落し、岐阜県側からの入込が見込めないことから、誘客に向けた取組みを図る必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 1	県・市等による協議会の設置により、各関係団体間の課題共有や横の連携が可能となり、事業の効率化が図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項
持続可能な地域づくりを進めることが必要。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
地元関係者と連携して、活性化に向けた取組みを継続的に進めることとともに、引き続き、活性化事業の今後の在り方について検討する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】